

# 石川県の年齢別推計人口 ～ 平成22年10月1日現在 ～

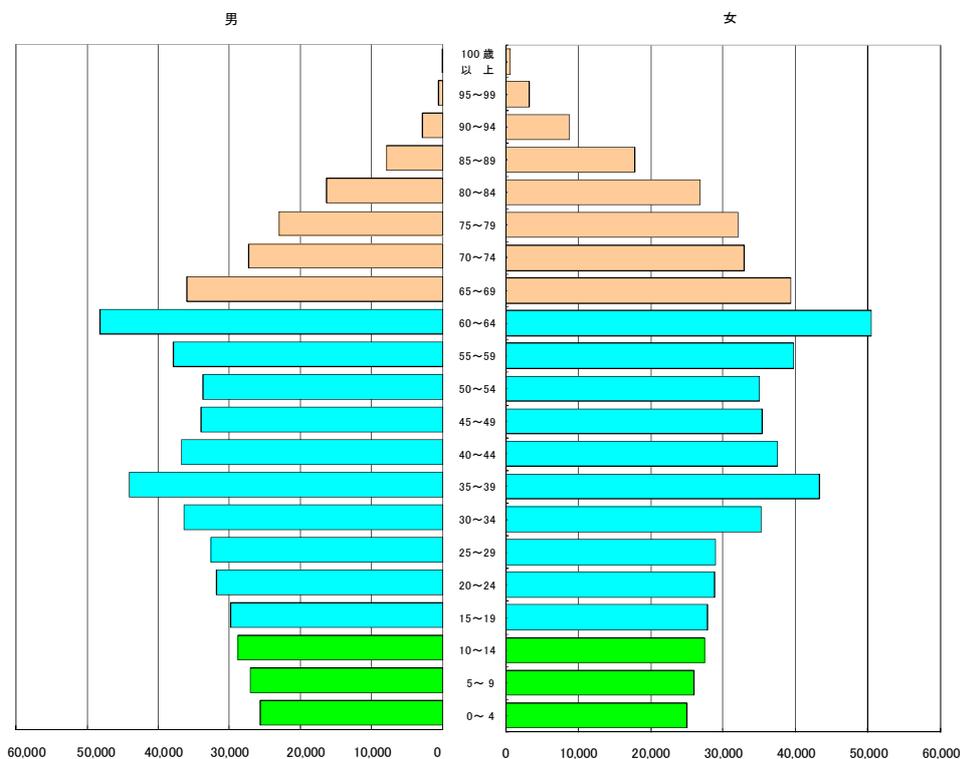
平成22年10月1日現在の石川県の年齢別推計人口について取りまとめました。  
(この数値は、平成17年国勢調査を基準として推計をおこなったものであり、平成22年国勢調査結果とは異なります。)

1. 平成22年10月1日現在推計人口  
平成22年10月1日現在推計人口は、1,164,447人(男561,896人、女602,551人)である。
2. (1) 年齢(5歳階級)別人口

○最も多いのは、60～64歳の98,577人

5歳階級別人口では、60～64歳が98,577人と最も多くなっており、男女別でも同様となっている。次いで多かったのは、35～39歳の87,345人、その次が55～59歳の77,559人となっている。  
【図1、表6】

図1 年齢(5歳階級別)・男女別人口(平成22年10月1日現在推計)



※60～64歳には、第1次ベビーブーム(昭和22～24年生まれ)の人口が含まれており、35～39歳には、第2次ベビーブーム(昭和46～49年生まれ)の人口が含まれている。

## 2. (2) 年齢(3区分)別人口

	構成比	前年比
年少人口(0～14歳)	160,084人 (13.7%)	△1,554人 (△0.2ポイント)
生産年齢人口(15～64歳)	727,383人 (62.5%)	△3,207人 (△0.1ポイント)
老年人口(65歳以上)	276,124人 (23.7%)	+2,551人 (+0.3ポイント)

年齢3区分別人口では、年少人口(0～14歳)が160,084人で13.7%、生産年齢人口(15～64歳)が727,383人で62.5%、老年人口(65歳以上)が276,124人で23.7%となっている。老年人口のうち、65歳から74歳までは135,624人で11.6%、75歳以上は140,500人で12.1%となり、それぞれの老年人口に占める割合は49.1%、50.9%とほぼ同割合となっている。

前年に比べ、年少人口が1,554人の減少(0.2ポイントの低下)、生産年齢人口が3,207人の減少(0.1ポイントの低下)、老年人口は2,551人の増加(0.3ポイントの上昇)となっている。

【表7、図2-1～2-2】

図2-1 年齢3区分別人口・割合(平成21・22年)

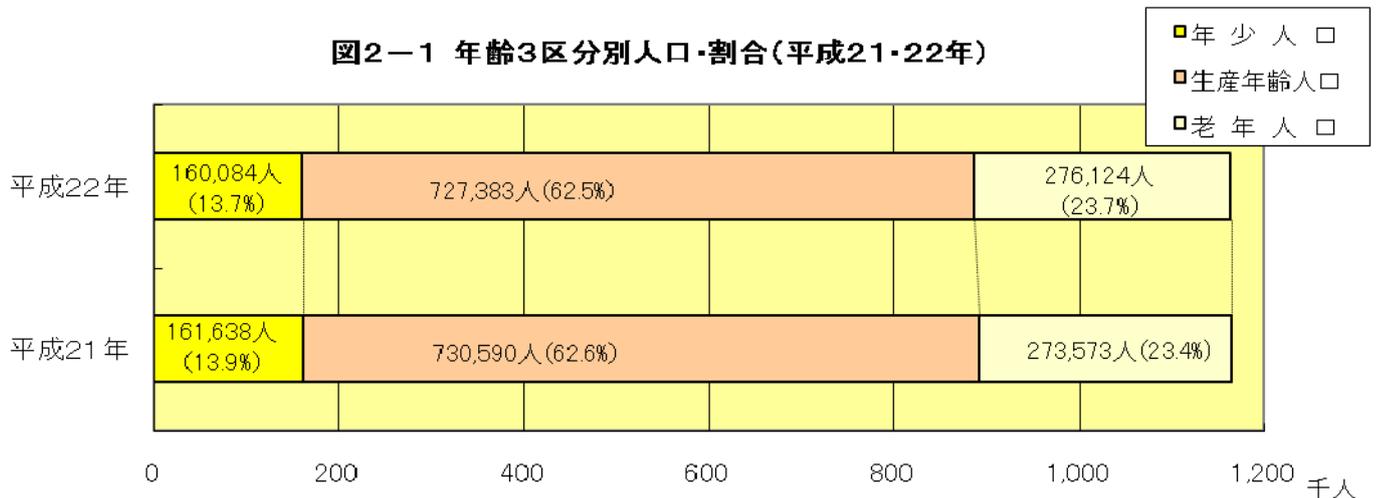
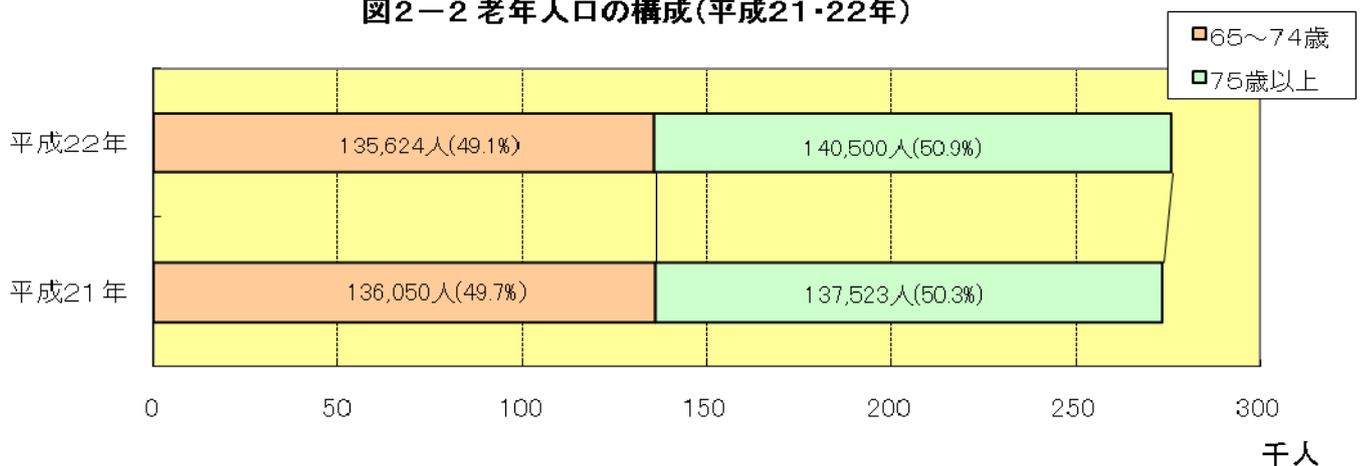


図2-2 老年人口の構成(平成21・22年)



市町別にみると、年少人口では川北町の20.7%、生産年齢人口では野々市町の70.2%、老年人口では珠洲市の41.8%が最も高い割合になっている。【表1-1、7】

表1-1 年少人口・生産年齢人口・老年人口の順位（平成22年10月1日現在）

単位：%

順位	区分	年少人口(0～14歳)		生産年齢人口(15～64歳)		老年人口(65歳以上)	
		市町名	割合	市町名	割合	市町名	割合
上位	1	川北町	20.7	野々市町	70.2	珠洲市	41.8
	2	能美市	16.6	内灘町	65.3	能登町	40.1
	3	津幡町	16.6	津幡町	65.2	穴水町	39.8
	4	白山市	15.4	金沢市	65.2	輪島市	38.5
	5	内灘町	15.0	白山市	63.8	志賀町	34.5
下位	15	志賀町	10.9	志賀町	54.6	白山市	20.7
	16	輪島市	9.6	輪島市	51.9	内灘町	19.6
	17	珠洲市	9.5	穴水町	51.1	津幡町	18.2
	18	能登町	9.2	能登町	50.8	川北町	17.9
	19	穴水町	9.1	珠洲市	48.6	野々市町	15.0

対前年増減率をみると、石川県全体では年少人口(0～14歳)が1.0%、生産年齢人口(15～64歳)が0.4%低下し、老年人口(65歳以上)は0.9%上昇している。

市町別にみると、年少人口では川北町の2.1%、生産年齢人口では野々市町の1.5%、老年人口についても野々市町の3.3%と高い増加割合を示している。【表1-2】

表1-2 年少人口・生産年齢人口・老年人口増減率の上・下位市町（平成22年10月1日現在）

単位：%

順位	区分	年少人口(0～14歳)		生産年齢人口(15～64歳)		老年人口(65歳以上)	
		市町名	増減率	市町名	増減率	市町名	増減率
上位	1	川北町	2.1	野々市町	1.5	野々市町	3.3
	2	野々市町	1.5	津幡町	0.3	内灘町	2.9
	3	白山市	△0.1	能美市	0.3	津幡町	2.0
	4	金沢市	△0.2	金沢市	0.1	白山市	1.7
	5	能美市	△0.4	川北町	0.1	金沢市	1.5
下位	15	志賀町	△3.1	宝達志水町	△2.2	七尾市	△0.1
	16	輪島市	△3.2	穴水町	△2.5	穴水町	△0.7
	17	穴水町	△5.4	能登町	△2.9	輪島市	△1.2
	18	羽咋市	△5.6	輪島市	△2.9	珠洲市	△1.2
	19	能登町	△6.8	珠洲市	△3.6	能登町	△1.3

※増減率＝ $\frac{\text{平成22年各年齢区分別人口}-\text{平成21年各年齢区分別人口}}{\text{平成21年各年齢区分別人口}} \times 100$

2. (3) 10年間(平成12~22年)の変化

○ 続く少子高齢化、減少する生産年齢人口

年少人口割合は能美市、川北町以外の市町で縮小し、生産年齢人口割合については、全市町で縮小している。

年少人口割合は、この10年間で平成12年の14.9%から平成22年の13.7%へと1.2ポイント縮小している。市町別で見ると、最も縮小幅が大きかったのは能登町の3.5ポイントだった。

生産年齢人口割合も、66.1%から62.5%へと3.6ポイント縮小している。最も縮小幅が大きかったのは珠洲市の6.5ポイントだった。

老年人口割合は、この10年間で平成12年の18.6%から平成22年の23.7%へと5.1ポイント拡大している。この傾向は川北町以外のすべての市町においてみられるもので、中でも拡大幅が最も大きかったのは、能登町の9.0ポイントだった。

【表2、図3~6】

表2 年齢3区分の人口割合の推移(平成12年と平成22年)

単位: %  
ただし増減はポイント

年少人口				生産年齢人口				老年人口			
市町名	平成12年 (%)	平成22年 (%)	構成比の増減 (ポイント)	市町名	平成12年 (%)	平成22年 (%)	構成比の増減 (ポイント)	市町名	平成12年 (%)	平成22年 (%)	構成比の増減 (ポイント)
金沢市	14.6	13.6	△ 1.0	金沢市	68.8	65.2	△ 3.6	金沢市	16.0	21.1	5.1
七尾市	14.3	12.1	△ 2.2	七尾市	61.9	58.0	△ 3.9	七尾市	23.6	30.0	6.4
小松市	15.7	14.8	△ 0.9	小松市	65.8	61.5	△ 4.3	小松市	18.1	23.4	5.3
輪島市	12.0	9.6	△ 2.4	輪島市	56.2	51.9	△ 4.3	輪島市	31.8	38.5	6.7
珠洲市	11.7	9.5	△ 2.2	珠洲市	55.1	48.6	△ 6.5	珠洲市	33.2	41.8	8.6
加賀市	14.3	12.6	△ 1.7	加賀市	64.5	59.5	△ 5.0	加賀市	21.0	27.9	6.9
羽咋市	13.3	11.7	△ 1.6	羽咋市	62.9	57.6	△ 5.3	羽咋市	23.8	30.8	7.0
かほく市	15.7	14.9	△ 0.8	かほく市	65.4	60.8	△ 4.6	かほく市	18.8	24.3	5.5
白山市	16.2	15.4	△ 0.8	白山市	67.5	63.8	△ 3.7	白山市	16.1	20.7	4.6
能美市	16.5	16.6	0.1	能美市	66.8	62.6	△ 4.2	能美市	16.6	20.8	4.2
川北町	17.2	20.7	3.5	川北町	64.0	61.4	△ 2.6	川北町	18.7	17.9	△ 0.8
野々市町	15.0	14.8	△ 0.2	野々市町	72.4	70.2	△ 2.2	野々市町	10.9	15.0	4.1
津幡町	19.6	16.6	△ 3.0	津幡町	65.6	65.2	△ 0.4	津幡町	14.6	18.2	3.6
内灘町	17.3	15.0	△ 2.3	内灘町	70.1	65.3	△ 4.8	内灘町	12.4	19.6	7.2
志賀町	12.8	10.9	△ 1.9	志賀町	59.9	54.6	△ 5.3	志賀町	27.3	34.5	7.2
宝達志水町	14.6	12.6	△ 2.0	宝達志水町	62.4	58.2	△ 4.2	宝達志水町	23.0	29.2	6.2
中能登町	14.1	13.3	△ 0.8	中能登町	61.5	56.7	△ 4.8	中能登町	24.4	30.1	5.7
穴水町	11.3	9.1	△ 2.2	穴水町	56.3	51.1	△ 5.2	穴水町	32.4	39.8	7.4
能登町	12.7	9.2	△ 3.5	能登町	56.3	50.8	△ 5.5	能登町	31.1	40.1	9.0
石川県	14.9	13.7	△ 1.2	石川県	66.1	62.5	△ 3.6	石川県	18.6	23.7	5.1

(注) 各年10月1日現在

平成12年については、同年調査時の41市町村を上記19市町に組み替えて積算した。

図3 市町別年少人口割合(平成12年・22年)

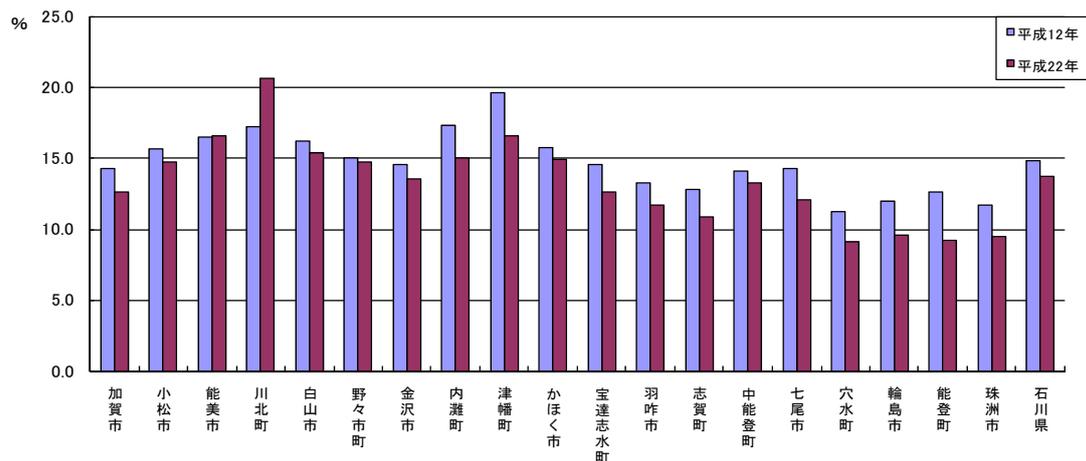


図4 市町別生産年齢人口割合(平成12年・22年)

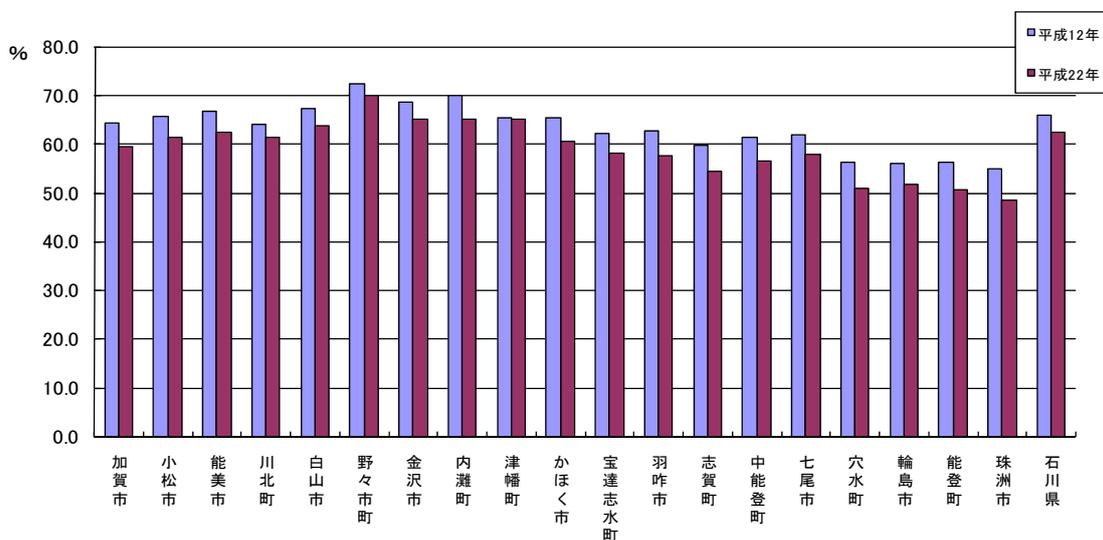


図5 市町別老年人口割合(平成12年・22年)

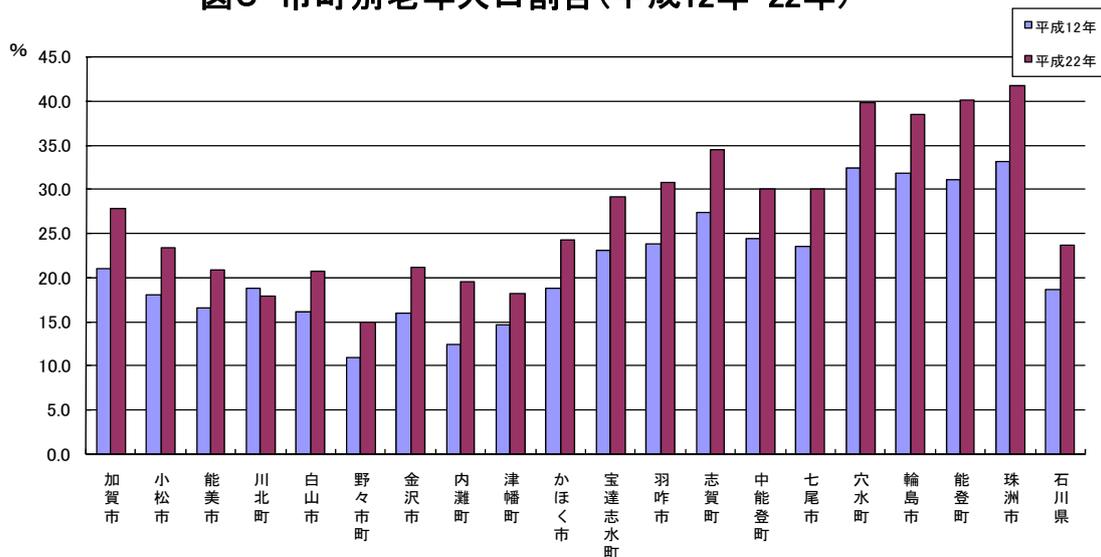
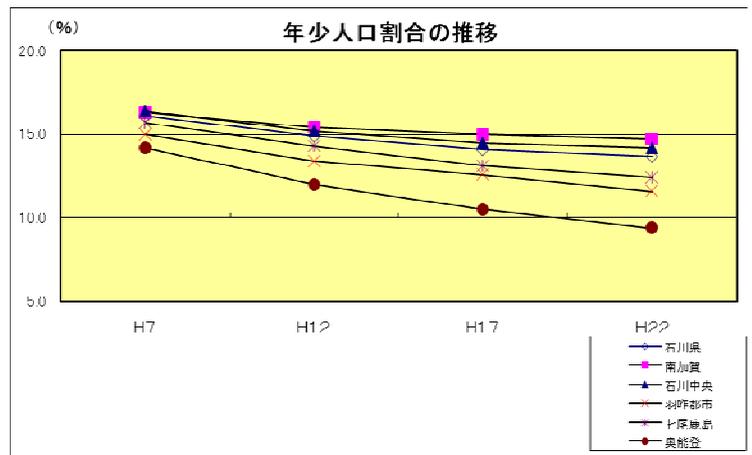


図6 年齢(3区分)別人口割合(平成7年・12年・17年・22年)

・年少人口割合の推移

(単位:%, ポイント)

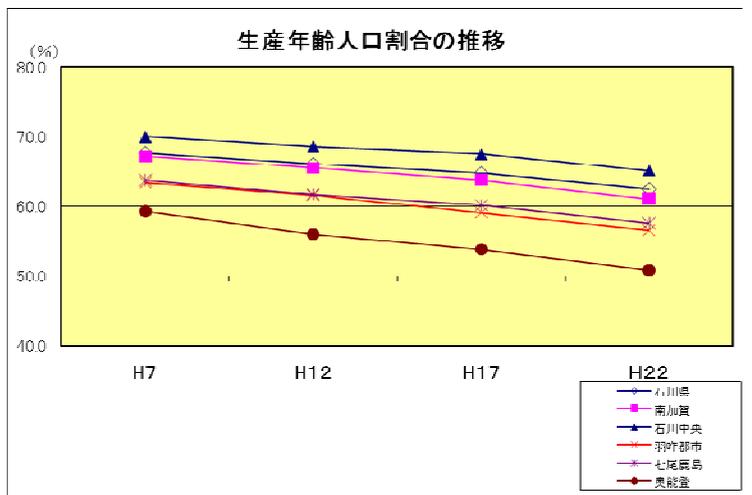
	H7	H12	H17	H22
石川県	16.1	14.9	14.1	13.7
南加賀	16.3	15.4	15.0	14.7
石川中央	16.4	15.2	14.5	14.2
羽咋郡市	15.0	13.4	12.6	11.6
七尾鹿島	15.7	14.3	13.1	12.4
奥能登	14.2	12.0	10.5	9.4



・生産年齢人口割合の推移

(単位:%, ポイント)

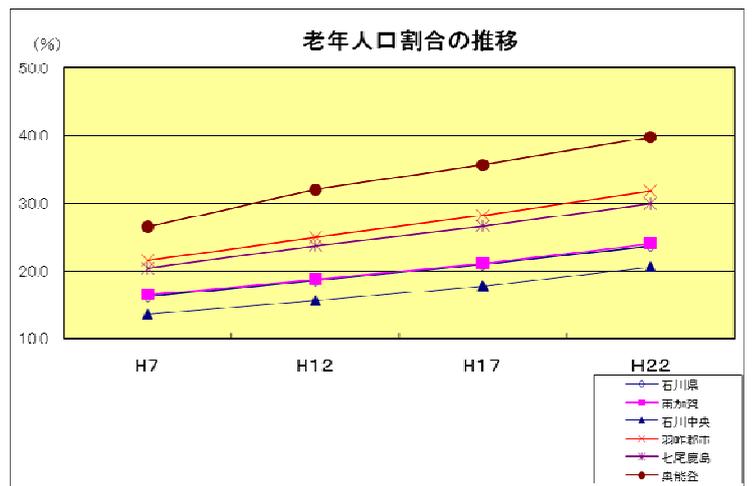
	H7	H12	H17	H22
石川県	67.7	66.1	64.8	62.5
南加賀	67.2	65.5	63.8	61.1
石川中央	70.0	68.0	67.5	65.1
羽咋郡市	63.4	61.0	59.1	56.6
七尾鹿島	63.8	61.0	60.2	57.6
奥能登	59.3	56.0	53.8	50.8



・老年人口割合の推移

(単位:%, ポイント)

	H7	H12	H17	H22
石川県	16.2	18.0	20.9	23.7
南加賀	16.5	18.0	21.1	24.1
石川中央	13.6	15.0	17.8	20.6
羽咋郡市	21.5	25.0	28.2	31.8
七尾鹿島	20.4	23.0	26.7	30.0
奥能登	26.5	32.0	35.7	39.8



※区分

- 南加賀: 小松市、加賀市、能美市、能美郡
- 石川中央: 金沢市、かほく市、白山市、石川郡、河北郡
- 羽咋郡市: 羽咋市、羽咋郡
- 七尾鹿島: 七尾市、鹿島郡
- 奥能登: 輪島市、珠洲市、鳳珠郡

2. (4)人口動態

○ 自然動態 △1,748人 社会動態 △461人

平成21年10月1日から平成22年9月30日の1年間で、自然動態は出生数9,724人 死亡数11,472人で1,748人の減少だった。社会動態は県外からの転入者数21,329人、県外への転出者数21,790人で461人の減少だった。  
【表3～5、9】

表3 年次別、要因別人口動態数の推移

(単位:人)

年次	人口	人口増減数 (自然動態 + 社会動態)	自然動態			社会動態		
			自然増減数	出生者数	死亡者数	社会増減数	県外からの 転入者数	県外への 転出者数
平成12年	1,180,977	761	2,103	11,505	9,402	△ 1,342	22,598	23,940
13	1,180,525	△ 452	1,901	11,242	9,341	△ 2,353	21,917	24,270
14	1,180,565	40	1,564	11,180	9,616	△ 1,524	22,227	23,751
15	1,179,168	△ 1,397	986	10,954	9,968	△ 2,383	21,649	24,032
16	1,177,133	△ 2,035	614	10,587	9,973	△ 2,649	23,160	25,809
17	1,174,026	△ 2,343	△ 25	10,330	10,355	△ 2,318	22,882	25,200
18	1,171,791	△ 2,235	△ 264	10,194	10,458	△ 1,971	23,019	24,990
19	1,170,414	△ 1,377	△ 237	10,278	10,515	△ 1,140	22,866	24,006
20	1,169,167	△ 1,247	△ 461	10,473	10,934	△ 786	22,466	23,252
21	1,166,656	△ 2,511	△ 1,316	10,006	11,322	△ 1,195	22,020	23,215
22	1,164,447	△ 2,209	△ 1,748	9,724	11,472	△ 461	21,329	21,790

注: 各年分の人口増減数は前年10月から当年9月までの自然動態と社会動態の計である。  
平成12年、17年の人口は国勢調査による。

表4 過去1年間の自然動態の順位(平成21年10月1日～平成22年9月30日)

(単位:人,%)

順位	増加				減少			
	増加数(人)		増加率(%)		減少数(人)		減少率(%)	
1	金沢市	398	野々市町	0.67	輪島市	△ 389	能登町	△ 1.53
2	野々市町	337	川北町	0.36	加賀市	△ 370	穴水町	△ 1.37
3	津幡町	52	津幡町	0.14	七尾市	△ 347	珠洲市	△ 1.32
4	白山市	37	金沢市	0.09	能登町	△ 305	輪島市	△ 1.28
5	川北町	22	白山市	0.03	珠洲市	△ 215	志賀町	△ 0.92

(注) 平成21年10月から22年9月までの1年間の計である。

表5 過去1年間の社会動態の順位(平成21年10月1日～平成22年9月30日)

(単位:人,%)

順位	増加				減少			
	増加数(人)		増加率(%)		減少数(人)		減少率(%)	
1	金沢市	1,293	野々市町	1.07	小松市	△ 521	珠洲市	△ 1.20
2	野々市町	541	能美市	0.32	七尾市	△ 346	能登町	△ 1.12
3	能美市	154	金沢市	0.28	加賀市	△ 308	輪島市	△ 1.00
4	白山市	26	川北町	0.12	輪島市	△ 302	羽咋市	△ 0.92
5	川北町	7	内灘町	0.03	能登町	△ 222	穴水町	△ 0.71

(注) 平成21年10月から22年9月までの1年間の計である。